

福岡県北九州市におけるMIMの取組

I 北九州市における教育環境・状況

1 北九州市における基礎情報（平成26年5月1日現在、人口を除く）

(1) 人口 964,700人

(2) 学校数 市立小学校131校, 市立中学校62校
市立小学校分校1校

(3) 児童・生徒数 小学校48,420人, 中学校23,987人

(4) 通級指導教室および特別支援学級の設置状況

① 小学校

通級指導教室	13校,	21教室,	276名
言語障害	2校,	4教室,	52名
難聴・言語	2校,	2教室,	19名
情緒障害	2校,	5教室,	72名
LD・ADHD	6校,	9教室,	124名
弱視	1校,	1教室,	9名

特別支援学級

知的障害	76校,	102学級,	527名
自閉症・情緒障害	46校,	67学級,	357名
難聴	4校,	4学級,	11名

② 中学校

通級指導教室	5校,	7教室,	71名
難聴・言語	2校,	2教室,	13名
情緒障害	1校,	2教室,	19名
LD・ADHD	2校,	3教室,	39名

特別支援学級

知的障害	42校,	58学級,	295名
自閉症・情緒障害	15校,	20学級,	117名
難聴	2校,	2学級,	8名

(5) 特別支援学校の設置状況

福岡県立の特別支援学校 2校

- ・北九州視覚特別支援学校（幼稚部・小・中学部・高等部・（専攻課理療科））
- ・小倉聴覚特別支援学校（幼稚部・小・中学部）

市立特別支援学校 9校

- ・小倉北特別支援学校（知的障害の小・中学部・高等部）
- ・小倉南特別支援学校（知的障害の小・中学部・高等部）
- ・小池特別支援学校（知的障害の小・中学部・高等部）
- ・八幡特別支援学校（知的障害の小・中学部・高等部）
- ・特別支援学校北九州中央高等学園（知的障害の幼稚部・小・中学部・高等部）

- ・ 企救特別支援学校（病弱・身体虚弱の小・中学部・高等部）
- ・ 門司特別支援学校（病弱・身体虚弱の小・中学部・高等部）
- ・ 北九州特別支援学校（肢体不自由の小・中学部・高等部）
- ・ 八幡西特別支援学校（病弱・身体虚弱・肢体不自由の小・中学部・高等部）

2 北九州市における発達障害関連の施策

(1) 文部科学省の委託事業

① 「早期からの教育相談・支援体制の構築事業」

実施期間：平成 25 年度より実施。その年の 3 月 31 日年次更新

概要：早期支援コーディネーター（教員免許状または保育士免許状を有し、特別支援教育に関する専門的知識・経験および実践的指導力を有する者）を活用し、保健福祉局や子ども家庭局など他部局と連携して情報提供や情報収集を行い、就学に向けた幼児期からの相談支援の充実を図っている。幼児の就学に向けた相談支援を行う際に、支援の在り方などを保護者と一緒に考えるための資料となるリーフレットを配付した。

② 「特別支援学校のセンター的機能充実事業」

実施期間：平成 26 年度より実施。毎年 3 月 31 日年次更新

概要：

ア 訪問相談

園や学校等を訪問し、子どもへの支援や相談を行う。小学校への移行支援などを行う。

イ 来校相談

来校する園や学校等の職員・保護者・幼児児童生徒への相談を行う。

ウ 公開講座の開催

全市公開講座、各地公開講座を行う。これまでに、「キレやすい子どもたちへの理解と対応」（アンガーマネジメントについて）、「教育的ニーズによる子どもたちへの合理的配慮」（ICT の活用について）等の講座を開催。

エ 特別支援教育連絡会

小・中学校と特別支援学校、小学校間、中学校間等で情報交換や協議会を行う。

オ 研修会等への参加

園や学校等の依頼を受け、研修会に参加する。特別支援教育コーディネーター連絡会議に参加する。具体的には、小・中・高の特別支援教育コーディネーターの研修会に特別支援学校の特別支援教育コーディネーターが入り、協議の進行や助言を行う。

カ 教材等の紹介や貸出

検査器具、書籍、教材等の紹介や貸出を行う。

キ 情報発信

リーフレットを配布し、取組を紹介する。ホームページ上で教材等を紹介する。

- (2) 県の委託事業：なし
- (3) 市独自の事業：なし

3 北九州市における学力向上関連の施策

- (1) 文科科学省の委託事業：なし
- (2) 県の委託事業：なし
- (3) 市独自の事業
 - ① 「子どもひまわり学習塾」
実施期間：平成26年度より実施
概要：小学校31校，中学校11校で，週2回（1回1時間程度）放課後等の時間に補充的な学習を支援。1校あたり，10～20人程度の児童生徒を対象に実施。学習指導員については，元教師や大学生，地域の方々など。
 - ② 「多層指導モデル（MIM）」
実施期間：平成26年度より実施
概要：モデル校として3校で実施。1年生担任と管理職及び希望者を対象とした年間3回の研修を実施。

4 発達障害のある子ども等への支援のリソース

- (1) 支援員や巡回相談等の人的支援
特別支援教育学習支援員
概要：
 - ・ 通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある児童生徒の支援や校内支援体制整備の補助業務を行う。
（学習指導補助，日常生活の指導補助，安全を確保するための見守り等）
 - ・ 1週間あたり5日
 - ・ 8時30分～15時30分（休憩時間60分間を含む）
 - ・ 資格は必要なし。特別支援教育に関する基礎的な知識や理解を示している者。
- (2) 教材等の提供といった物的支援
特記事項なし
- (3) 公的な相談・指導機関
 - ① 障害者基幹相談支援センター
概要：障害者のための第1次相談窓口として，地域における相談支援の中核的な役割を担う機関。家族や本人から様々な相談を受ける「よろず相談窓口」であり，相談者の自宅に出向くなど丁寧な相談支援方法により，障害者が自立した日常生活や社会生活を営むことができるように支援する。
 - ② 子ども総合センター
概要：18歳になるまでの子どもにおける心身の発達の遅れ，非行，不登校等について，児童福祉司や児童心理司などの専門スタッフが相談に応じる。また，虐待されている子どもや，家族で育てることができない子どもについての相談にも応じる。

③ 発達障害者支援センター

概要：自閉症等の発達障害について，本人や家族，関係機関，施設等からの相談に応じ，情報提供や助言，関係機関との連携・調整等を行う相談支援機関。あわせて，自閉症等の発達障害について，普及・啓発や専門性を高めることを目的とした研修を行う。

④ 特別支援教育相談センター

概要：併設の総合療育センターと連携しながら，特別な支援の必要な幼児・児童・生徒や，その保護者，学校等への専門的な相談支援を行う。

II 北九州市における MIM の取り組み

1 MIM に取り組むことになった経緯

本市における学力向上は喫緊の課題である。これまでの全国学力・学習状況調査結果や CRT 結果などの分析から，また，現場の声から児童の問題を把握する力が弱いのではないかといった課題が見えた。そこから，問題の内容を読解する力，読みの力を付けていくための指導方法として，MIM に着目した。また，近隣の飯塚市では，数年前から MIM に取り組み，その成果を上げていることを知り，本年度より本市でもモデル校を3校選考し MIM を実施するに至った。

2 MIM に関する実施計画

① MIM 実施校に関する計画

初年度（平成 26 年度）はモデル校 3 校で実施。

二年目（平成 27 年度）は市内の小学校へ実施校を公募し，61 校で実施。

三年目（平成 28 年度）は市内の小学校へ実施校を公募し，130 校に近づける予定。

四年目（平成 29 年度）から市内全校 130 校で実施予定。

② MIM に関する研修計画（平成 26 年度）

平成 26 年 4 月・・・モデル校 3 校を選考

5 月・・・第 1 回 MIM 研修実施

7 月・・・第 2 回 MIM 研修実施

平成 27 年 1 月・・・第 3 回 MIM 研修実施

3 MIM に関する事業における行政（教育委員会等）の具体的役割

MIM の実践を充実させるために，実施校を対象とした研修や実践報告などの場を設定する。未実施校に対しては，モデル校の成果を踏まえた MIM の紹介をする。MIM を実践し児童の実態を把握する中で，特別な支援が必要であるときには，特別支援教育課との連携を図り児童・保護者への適切な支援を講じる。

4 MIM に関する研修

(1) 平成 26 年度 第 1 回 MIM 研修 (5 月)

- ① 対象者：第 1 学年担任と管理職および希望者
- ② 内容：「通常の学級における多層指導モデル MIM の指導」
- ③ 講師：福岡県飯塚市立飯塚小学校 通級指導教室担当 教諭 杉本 陽子
- ④ 参加者からの声：
 - ・ MIM を子どもたちと一緒にやってみたいという意欲がわいた。手を叩いて言葉を話すことや変身ボックスを使ってカードを変身することは視覚的にもとても楽しむことができた。子どもたちと楽しみながら一緒に学ぶことを考えていきたい。
 - ・ この教材を生かすためには、担任とそれをサポートする体制が大事だと思う。「一人もとりこぼさない」という気持ちで、つまずきをしっかり分析し、3 学期の伸びを楽しみに取り組みたい。
 - ・ 一斉指導の中では、ついていけない、わからないままみんなに合わせている子どもの気持ちに改めて気付かされた。そして、つまずいてからでは遅いという考え方に賛同した。MIM を使うことで、やる気をくじいたり、セルフイメージを傷つけたりする前に手だてを取り、支援をしていければと強く思っている。

(2) 平成 26 年度 第 2 回 MIM 研修 (7 月)

- ① 対象者：第 1 学年担任と管理職および希望者
- ② 内容：「多層指導モデル MIM 2 nd ステージの具体的な指導」
- ③ 講師：福岡県飯塚市立飯塚小学校 通級指導教室担当 教諭 杉本 陽子
- ④ 参加者からの声：
 - ・ 演習を交えながら丁寧な講話を聴くことができ、大変勉強になった。「この児童ならこのゲーム」と児童の顔を思い浮かべながら演習を受け、2 学期から試してみたいと思った。また、児童への配慮や支援の仕方など具体的に話していただき、今後の指導に生かしていきたい。
 - ・ MIM はよく研究されて出来上がったすばらしいプログラムだと思う。それだけに、ルールが細かく、バリエーションに富んでいるので、指導者がきちんと把握する必要があるのだと思った。

(3) 平成 26 年度 第 3 回 MIM 研修 (平成 27 年 1 月)

- ① 対象者：第 1 学年担任と管理職および希望者
- ② 内容：「多層指導モデル MIM 3 rd ステージの具体的な指導」
- ③ 講師：福岡県飯塚市立飯塚小学校 通級指導教室担当 教諭 杉本 陽子
- ④ 参加者からの声：
 - ・ 分かりやすい講話を聞く中で、校内体制づくりを管理職が行っていかないといけないことを感じた。時間設定の工夫が本校での課題になる。
 - ・ 他の児童と比べるのではなく、昨日の自分と比べて、できるようになったという満足感や喜びを味わわせてあげたいと思った。
 - ・ 個別指導を必要とする子どもたちの力を伸ばせるように、職員一丸となって取り組んでいきたいと思う。担任外がどれだけかかわれるかがポイントになると思うので、時間を確保し、教材の準備をしっかり行っていきたい。

5 MIM に関する事業についての現時点での成果

- ・教科書の音読につまずく児童がほとんどいなくなった。
- ・一文ずつリー形式で音読しても、自分の箇所がわからない児童がいなくなった。
- ・教師の話や問題文の理解ができるようになってきた。
- ・特殊音節に関する表記の間違えが圧倒的に少なくなった。

6 MIM に関する事業についての現時点での課題

計画的・継続的に実践していくために校内組織づくりの在り方をより具体化していく必要がある。

7 MIM に関する事業を進めるにあたって期待すること

- ・MIM を実践することで確かな読みの力が高まり、学力向上に効果的であることを実感したい。
- ・読むこと書くことにつまずきがある児童へ早期の適切な指導を行うことで、多くの児童が学ぶことの楽しさを感じることができるようになって欲しい。

8 MIM への要望

MIM の実践が、学力向上へ効果的であることを客観的に検証するための方策やデータなどがあれば知りたい。

9 今後 MIM に関する事業を進めようとしている自治体へのアドバイス・メッセージ

MIM の実践は、やればやるだけの成果が子どもの姿を通して見えてくる。子どもにとっても教師にとってもやり甲斐のある指導方法だと思う。まずは、身近なところからやってみるとよい。

(文責：北九州市教育委員会指導部指導第一課・指導主事 奥 浩太郎)